

おおだて 市議会だより

95号

平成22年2月1日



平成21年12月定例会 (会期: 11月30日~12月17日)

- 主な議案等審査結果 (12月定例会、第3回臨時会) … P.2
- 請願・陳情等 …………… P.3
- 一般質問 …………… P.4
- 各常任委員会の審議内容 …………… P.9
- 私もひ・と・こ・と …………… P.10

大館市消防出初式
平成22年1月5日

議案等審査結果(主なもの)

12月定例会(会期:11月30日~12月17日)・・・議案等87件を審査しました。

内訳・・・条例案10件、単行案6件、予算案11件、継続審査分認定23件、継続審査分単行案1件、要求書1件、議員提出分選任1件、意見書案5件、請願2件、陳情10件、継続審査分請願3件・陳情14件

主 な 案 件 ・ 内 容	結 果
<p>○議会の議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案</p> <p>○市長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例案</p> <p>○大館市病院事業管理者の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例案</p> <p>○公営企業に従事する企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例案</p> <p>内 容 秋田県人事委員会の勧告を踏まえ、市長及び議員等の期末手当を減額します。また、公営企業職員の自宅に係る住居手当を廃止します。</p>	原案可決
<p>○大館市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例案</p> <p>内 容 秋田県人事委員会の勧告を踏まえ、職員の期末手当、給料の額を減額します。また、自宅に係る住居手当を廃止します。</p>	賛成多数により 原案可決
<p>○大館市墓地公園に関する条例の一部を改正する条例案</p> <p>未使用墓地の返還を促進するため、既納の永代使用料を還付することができるようにするものです。</p>	原案可決
<p>○秋田三鶏記念館に関する条例案</p> <p>秋田三鶏記念館を公の施設として設置し、管理するものです。</p>	
<p>○指定管理者の指定について</p> <p>つぎの施設の指定管理者を以下のとおり指定します。</p> <p>1. 大館市比内福祉保健総合センター(ハートヒル とっと)</p> <p>【指定する団体】 大館市比内町扇田字中山川原56番地7 社会福祉法人 比内ふくし会</p> <p>2. 大館市斎場及び大館市ペット霊園</p> <p>【指定する団体】 大館市片山字中通6番地2 東北ビル管財株式会社</p> <p>3. 大館総合技能センター</p> <p>【指定する団体】 大館市有浦三丁目6番22号 職業訓練法人 大館北鹿職業訓練協会</p>	原案可決
<p>○平成21年度大館市一般会計補正予算(第6号)案</p> <p>地震情報等を国から市に瞬時に伝える全国瞬時警報システム整備費、産科医の処遇を改善するための時間外分娩に対する産科医等確保支援事業費補助金、認知症高齢者グループホームスプリングラー整備事業費補助金(グループホーム1施設)、福利厚生施設等助成金(株式会社フレッシュシステム、北秋容器株式会社)、競技用トランポリン(2台)購入費、樹海ドームスピーカー購入費、新入学児童用ランドセル購入費 などにかかわる予算です。</p>	賛成多数により 原案可決

第3回臨時会（会期：11月2日）…議案等2件を審査しました。
内訳・・・予算案1件、報告1件

主 な 案 件 ・ 内 容	結 果
○平成21年度大館市一般会計補正予算（第5号）案 新型インフルエンザワクチン接種費補助金にかかわる予算です。	原案可決

請願・陳情

12月定例会には請願2件、陳情10件が提出され、5件採択、2件趣旨採択、残りの5件は継続審査となりました。

12月定例会に提出されたもの

○EPA・FTA推進路線の見直しを求め日米FTAの推進に反対する意見書の提出要請について ○米価の回復と価格の安定、ミニマムアクセス米の輸入中止を求める意見書の提出要請について ○電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める意見書の提出要請について ○改正貸金業法の早期完全施行等を求める意見書の提出要請について ○細菌性髄膜炎ワクチンの公費による定期接種化の早期実現を求める意見書の提出要請について	採 択
○社会保障の拡充を求める意見書の提出要請について ○2010年度の年金確保に関する意見書の提出要請について	趣旨採択
○暮らしを支える行政サービスと人員の拡充を求める意見書の提出要請について ○雇用と生活を守る施策強化を求める意見書の提出要請について ○教育予算の拡充を求める意見書の提出要請について ○後期高齢者医療制度の廃止を求める意見書の提出要請について ○細菌性髄膜炎ワクチン接種への公費助成について	継続審査

継続審査となっていたもの

○政府がみずから決めた備蓄ルールに基づいて20万トン規模の政府米買い入れを求める意見書の提出要請について ○ミニマムアクセス米の輸入見直しを求める意見書の提出要請について ○原爆症認定制度の改革を求める意見書の提出要請について ○物価に見合う年金の引き上げを求める意見書の提出要請について	趣旨採択
---	------

－ 意見書の提出 －

EPA・FTA推進路線の見直しを求め日米FTAの推進に反対する意見書

《提出先》内閣総理大臣、財務大臣、農林水産大臣

米価の回復と価格の安定、ミニマムアクセス米の輸入中止を求める意見書

《提出先》内閣総理大臣、財務大臣、農林水産大臣

電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める意見書

《提出先》総務大臣、財務大臣、経済産業大臣

改正貸金業法の早期完全施行等を求める意見書

《提出先》衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、法務大臣、金融担当大臣

細菌性髄膜炎ワクチンの公費による定期接種化の早期実現を求める意見書

《提出先》衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、

厚生労働大臣、内閣官房長官

一般質問

会期中の12月7日、8日の2日間にわたって一般質問を行い、次の9議員が市政を取り巻く諸問題について市の方針をただしました。

主な質問と応答の内容は次のとおりです。

○質問者(質問順)

①安部 貞榮 議員
(いぶき21)

②斉藤 則幸 議員
(公明党)

③田中 耕太郎 議員
(いぶき21)

④相馬 エミ子 議員
(市民クラブ)

⑤佐藤 照雄 議員
(平成会)

⑥吉原 正 議員
(いぶき21)

⑦小畑 淳 議員
(平成会)

⑧明石 宏康 議員
(いぶき21)

⑨笹島 愛子 議員
(日本共産党)

あべさたえ
安部貞榮 議員



市民協働推進条例を 制定すべき

〈問〉市民ニーズの個性化・多様化など暮らしの課題に対し多様な主体者で対応する新たな公共サービスの創出し取り組みのためのキーワードは協働であり市民や町内会・団体やNPO・行政等の役割、財政的支援などを明記した本条例を市民などと協議の上、制定すべきである。

〈市長〉市民協働によるまちづくりの推進は重要と考えるが既に間口除雪など多くの分野で取り組んでおり他県の例を参考に勉強してまいりたい。

行財政改革と今後の 施策について

〈問〉国・県・市を合わせた借金は市民1人当たり約900万円。国から市に入る交付税は歳

入全体の36%だが先行きが不安。市税は人口減少や経済活動などの停滞で毎年減少し、市財政は厳しい現状である。不時の出費や年度間調整などに備えなければならぬ中、財政調整基金は20年度4億6000万円であり市の標準財政規模から見ても妥当な基金の額を幾らと考えるか。

〈市長〉20年度決算で標準財政規模は211億円であり法令等の規定はないが、これの5%以上、10億6000万円以上が望ましい額で21年度は確保できると見込みである。

〈問〉市の自主財源比率は歳入全体の31.5%であるが、これを高める施策は何か。

〈市長〉自主財源の確保は年々厳しくなっている。企業誘致などの民間投資の促進・雇用確保・農業の耕作放棄地対策・バイオマス関連産業など幅広く取り組み、財源確保に努める。

〈問〉人口の減少や財政の硬直化の中で産業の何を選択し、どれを集中的にブランド化を進めていくのか。

〈市長〉市の固有の財産として秋田犬・比内鶏・曲げわっぱは代表格であり、転作では山の芋・とんぶり・枝豆は面積も拡大している。全国や世界的ブランドとなれば、その選択や管理リスクなどの議論が必要である。一方、リサイクル産業や健康産

業の集積も進んでいるが、市のブランドの一つはやはりハチ公ではないか。さきの映画で知名度は飛躍的に高まり、ハチ公をキーワードに観光や産業、まちづくりが官民一丸となって幅広く取り組んでまいりたい。

JR花輪線への対応について

〈問〉JR花輪線の利用者の減少などから廃止の危機が言われているが発着地が大館市であること、歴史的に見ても北東北の拠点都市を標榜していることから利用促進を積極的に進めるべきではないか。

〈市長〉本線は市民の日常生活に深く浸透し親しまれている。また、沿線の風景は第一級で観光資源として「十和田八幡平四季彩ライン」の愛称で呼ばれている。東北新幹線全線開業なども視野に入れ、協議会を中心にPRと誘致に努める。

さいとうのりゆき
斉藤則幸 議員

救急医療情報キット 配布事業について

〈問〉冷蔵庫に「医療情報」を保管するキット配布事業を本市でも取り組んでどうか。

〈市長〉この事業は、市民の緊

急時の備えとして有効な方策の一つであるため、今後、先進事例を参考に検討してまいりたい。



公共施設の蛍光灯をLED化しては

〈問〉LED化し、電力使用量やCO₂の削減を図ってはどうか。

〈市長〉市内約1万カ所に設置している防犯灯をLED化した場合には年間約700万円の電気料が削減され、CO₂排出量についても20ワット相当のLEDを想定した場合には約60%程度の削減が見込まれる。

市長の政治姿勢について

〈問〉政府の事業仕分けが本市に与える影響は。

〈市長〉道路整備事業は「見直し」の判定を受けたことから地域活力基盤創出交付金事業の削減が予想される。地方交付税については「抜本的な制度見直しが必要」との結論が見直しの

方向性は出されていない。

介護について

〈問〉在宅介護慰労金の支給額を50000円くらいにできないか。

〈市長〉本事業による慰労金の支給額は、介護保険財政の安定的な運営を考慮した上で、市民税非課税世帯の介護保険サービスの月額負担限度額である2万4600円のおおむね1割となる月額2500円に設定している。

〈問〉小規模多機能型居宅介護について、今後の展望は。

〈市長〉この制度は、デイサービスを中心として利用者の状況や希望に応じて訪問ヘルパーの派遣やショートステイを組み合わせてサービスを提供することにより、在宅での生活の継続を支援するものである。本年度から始まった第4期介護保険事業計画に1カ所の整備を盛り込んでいる。

〈問〉認知症を患った高齢者を地域全体でどのようにサポートしていくのか。

〈市長〉市では、認知症への理解を深めていただくために認知症予防講演会や認知症キャラバンメイトの支援などを実施しており、今後は新聞等により広く市民に知っていただくように取り組んでいく。

「赤ちゃんの駅」の設置について

〈問〉気軽に立ち寄れる「赤ちゃんの駅」を設置してほしい。

〈市長〉乳幼児を持つ保護者が授乳やおむつ交換ができる場を提供するのが「赤ちゃんの駅」である。開設に向けて検討してまいりたい。

田中耕太郎 議員



市の財政運営について

〈問〉実質公債費比率がグリーンゾーンの18%に近い17.7%の現状と経常収支比率が高どまりしている要因はどこにあるのか。

〈市長〉公債費比率に関しては平成18年度からPFI事業の償還が始まったが今後は少しずつ減少していく見込み。経常収支比率は、20年度決算において96.7%と県内で最も高い比率。病院事業会計への繰り出しが5

億3000万円の大増になったことによる。

〈問〉市の財政運営のポイントをどこにしているのか。どこを押さえたら健全財政が保たれるのか。

〈市長〉歳入では自主財源である市税の確保を第一に、費用対効果や受益の限度を十分見きわめ使用料の見直しを行う。歳出については行財政改革を徹底し収支のバランスをとってまいりたい。

〈問〉本市も事業仕分けを行う必要性はないのか。

〈市長〉第三者の視点で事業を見直すという点では意義があったと思うが、短時間の仕分け作業により事業の廃止が決定されたことに地方の実情が十分に反映されたか疑問が残るところ。

〈問〉行政施策を再び骨太の対策プロジェクトで取り組むべき。

〈市長〉大館市総合計画の着実な推進を図りながら、リサイクル産業・健康産業・農業・林業などの育成を大きな柱として取り組んでいく。

市立病院の経営について

〈問〉繰り出し基準を定めるとしてはが歯どめの基準は。

〈市長〉市立病院は中核病院として市民の健康を守るため、また病院存続のため一般会計からの繰り出しが必要。当初予算で

2億円を措置しているが、追加の繰り出しも検討している。

〈問〉市立病院の改革プランの取り組みについて、その実現性はあるのか。

〈管理者〉改革プランの最重点目標である7対1入院基本料施設基準を5月より実施するとともに、がん診療連携拠点病院加算を取得。また、11月17日に弘前大学と専門医養成ネットワークに関する協定を締結し、今後の医師確保及び研修医の受け入れ体制を強化した。総合病院は2次医療機関として救急や重症患者の治療を中心に取り組み切れ目のない質の高い医療を展開していくため地域医療連携をより一層推進していく。

小・中学生スクールバスについて

〈問〉スクールバスの有無、定期券補助など、学校ごとに異なる不公平な利用者負担をなくすべき。また、公平で効率的な通学方法の確保についてのビジョンは。

〈教育長〉スクールバスは、市所有のバスと業者委託を併用している。今後、学校統合が進み学区の広域化が避けられない状況が予想され、地域や保護者の方々のご意見やご要望を尊重し不公平にならないようスクールバスを運行し登下校の安全確保に努めてまいりたい。

相馬エミ子 議員



病院に託児所を

〈問〉ことし5月から看護基準が7対1に変わり現在女性職員が319人にふえ、安心して働くためにも託児所は必要不可欠である。また、医師不足問題として女医確保にもなり得る院内託児所設置の見通しについて伺いたい。

〈市長〉近年は医療従事者、とりわけ女医確保、看護師の福利厚生等の環境整備が全国でも喫緊の課題となっている。アンケートを実施した結果、多くの職員が希望していることがわかったが、要望の中に24時間保育や給食完備・病後児保育等があり設置場所を含めスペースや運営費等クリアすべき課題が多く十分協議・検討し具体案がまとまり次第議会に提案したい。

高卒者の県内就職について

〈問〉来春高卒予定者の就職戦線が氷河期を迎え深刻な状況の中、就職浪人となった生徒は目標を失っており各高校の校長みずから要請に走り回っていると思うが、この現状をどのように認識しているか。全員の就職を目指すための具体的な対応策を急ぐべき。

〈市長〉昨年同期との比較では9・6ポイント下回っている。生徒の希望と求人業種との折り合いがつかない等のケースが多く、現段階での内定率が低くなっている状況とかがっている。進路指導の先生方もあらゆる努力をしている中で、私も企業訪問など、どこへでもうかがう姿勢である。

生活保護行政について

〈問〉当市の20年度1年間の生活保護に認定された世帯は72世帯で105人。本年度は8月末で693世帯で921人、昨年8月末の比較で26世帯、43人増となっている。失業による保護決定が増加しており、雇用保険受給終了後も就職が見つからない等生活保護行政は深刻な状況にあるが門前払いの実態は。また、現状を踏まえ、職員体制の強化・充実について伺いたい。

〈市長〉10月末の相談件数14

5件のうち43%の62件が申請に至っている。保護開始件数は55件となり、門前払いの実態はない。現在8人のケースワーカーを配置し1人当たり85世帯のところ、88世帯にふえていることから増員を検討している。

平和行政について

〈問〉ここ大館、花岡の地にNPO花岡記念会が募金活動を展開し平和記念館を建設したが、市長の記念館に対する見解を伺いたい。

〈市長〉建設に携わった皆様に心から敬意を表す。記念会の方から今後のあり方について提案があれば適宜協議したいものと考えている。

佐藤照雄 議員



民主党権で市の行政はどのように変化するか

〈問〉地方行政にとって国の政

策の変化は非常に大きいですが、民主党権になってどんな影響があるのか。

〈市長〉まだ市に対しての説明はないが、事業仕分けによる道路事業や下水道事業のほか、地方交付税が市の財政を大きく左右する。暫定税率の廃止では2億円の減収が見込まれる。

市の住宅政策のあり方について

〈問〉高齢化社会がますます進む中、高齢者向けの地域ごとの住宅政策を早急に進めるべきと思うが。

〈市長〉市ではことし3月に大館市住生活基本計画を策定した。住民の要望や財政状況などを勘案し地域の均衡を図り進めたい。

生活困窮者対策について

〈問〉生活困窮者が気安く相談できる窓口、あるいは自立指導するための相談体制の強化を。

〈市長〉市では県の主催で地域合同相談会を7月に開催し、今月も行う予定である。今後ともさまざまな機会を捉え、社会保障や生活支援制度などの助言を行いたい。

環境分野での地場産業の育成を

〈問〉自然資源など地域特性を生かした地場産業の育成を。

〈市長〉市ではこれまで、家電

リサイクル工場や廃木材廃材プラスタック再生建材工場の誘致などの育成支援を行い、それがこでん回収やペレット生産などへ波及してきた。今後も溶融スラッグの活用やバイオマス資源の再利用など、本市の特色を生かし民間投資が促進されるよう育成したい。

市の財政と市立病院の経営について

〈問〉厳しい市の財政の中、市立病院への繰出金がふえている。さらなる経営努力を望む。

〈管理者〉改革プランでの数値を実現するため、院内でも各科・課にわたって目標を掲げ努力しているほか、各種基準の資格を取得するなど2次医療機関としての役割と増収に努めており、その効果が出てきている。

時代背景に対応する教育の確立を

〈問〉時代が進む中で責任感など社会性の欠如が指摘されているが、今後どう対応するのか。

〈教育長〉社会活動の中心となる成年期の方々への取り組みは難しいが、国や県の施策を取り入れながら幼少期からの保護者を含めた学習環境の整備を進めたい。

よしわら 正 議員

地域発案の地域づくりを

〈問〉住民みずから地域課題を見つつけ、政策を提言し解決していくという地域づくりへの市長の見解は。

〈市長〉私も同感である。政策提言を受けるための市の環境づくりも必要である。利用しやすい助成制度の創設についても議会と相談したい。



地域枠予算の創設を

〈問〉例えば、旧大館市で1000万円、旧比内町・田代町が各500万円の地域枠予算で地域の諸課題に住民みずから取り組むことは、市長が言う協働自治にも合致する。ぜひ実現に向けて取り組んでほしい。

〈市長〉住民主体の地域活性化の手法の一つとして重要であるが、限られた予算を有効に使うためにも具体的な地域ニーズに

的確に対応し、必要な対策を講じてまいりたい。

学校統合と校舎の
利活用について

〈問〉学校は地域の原風景。統合及び年次については、地域住民の意向を十分に尊重すべき。

〈市長〉住民の心情を理解し、保護者の不安にも丁寧に対応しながら合意形成を図ってまいりたい。

〈問〉校舎の利活用については、全国でも数多くの実例がある。統合が決まった場合は、直ちに地元と行政で具体的活用に向けた協議会を立ち上げるべき。

〈市長〉賛成である。地域の意向を尊重しながら利活用とあわせて地域の活性化について協働する組織の設置を検討する。

都市計画税の見直しと
説明責任について

〈問〉県内の各市で都市計画事業が実施されながら、税として徴収している市は少ない現状である。市長の見解を伺いたい。

〈市長〉都市計画税を課税しているのは本市と由利本荘市の2市。都市基盤整備に充てる貴重な自主財源でことしは1億8000万円を見込んでいる。引き続き確保し、街路や公園・都市水道などの整備を進めたい。

〈問〉存続するとすれば目的税

であるので、納税者に用途やどういう利益があるのか等の説明をしっかりとすべきである。

〈市長〉今まで使途と充当金額を広報等に掲載してきたが、納税者個々に説明をとる提案を含めて今後改善してまいりたい。

予算に評価を生かして

〈問〉国の事業仕分けが話題になっていくが、本市も事業の評価・反省を生かした予算編成を。

〈市長〉行政内部での評価・検証を行い、査定に十分生かしている。

おばた きよし 議員



ハリウッド映画での
ハチ公効果の今後は

〈問〉大館の持っているさまざまな観光資源との連携は。

〈市長〉「ハチ公」そして秋田犬とほかの観光資源との連携は大

切である。例えば、秋田犬会館・建設中の秋田三鶏記念館・芝谷地湿原植物群落・長走風穴高山植物群落や本市が誇る国指定天然記念物について順に見学ができ、これらをテーマとした市内観光コースとして取り入れるべき。同様に、秋田犬や物産品などをテーマごとに組み合わせた見学を勧めることは効果的と思う。1年後に迫った東北新幹線全線開業を活用し、「ハチ公のふるさと大館」を掲げながら本市をアピールすることが必要。ハチ公ブームは大館市観光物産プラザのオープンと相まって、「ハチ公・秋田犬」ブランドの新商品開発を誘発し、JR6社・青森県と一体となった観光誘致の事業を行うこととしている。また、観光戦略を維持するため、大館市観光基本計画も策定中である。

地域協働での市道・
生活道路の整備について

〈問〉地域協働での市道・生活道路の整備をする制度の創設は。

〈市長〉増大する市民ニーズや地域の課題を解決するため、町内会やNPOなどの各種団体が有する創造性や実践力を生かした市民協働のまちづくりの推進は極めて重要。地域協働での道路整備についても町内会等と市が新たな形で役割分担し地域の

生活基盤を整備するものであり積極的に取り組む。生活道路についても国庫補助等が創設されており、また、狭あい道路整備については町内会等の事業主体に3分の1の補助もされる。さらには、現在市が実施している私道整備補助金の運用基準の緩和や町内会等が生活道路の整備を行う際に提供している原材料について、碎石のほか側溝などのコンクリート資材等についても検討し、積極的に地域協働の道路整備を図ってまいりたい。

メタボ対策について

〈問〉「健康おおだて21」計画の中での位置づけと現在の取り組みは。また、今後どのように広げていくのか。

〈市長〉車社会による運動不足や高カロリー食による栄養過多などで誰もがメタボに陥る可能性があり、これを抑制することが社会的使命。「健康おおだて21」を策定し、市民への健康教室の開催や情報提供に努めている。昨年度から、誰もが健康づくりに取り組めるよう「元気発信始めるプロジェクト」事業をスタートさせ、市民の出演協力を得ながら啓発用のムービーを作成し健康教育も行ってきている。来年度は夜間講座なども開催しながら市民全体の取り組みとしていきたい。

あかしひろやす
明石宏康 議員



たばこ税の減収について

〈問〉20年度の当市のたばこ税は4億7600万円余り、19年度より3600万円ほど減少している。21年度の見込み調定額はさらに減り4億4600万円ほどになる。一部の大口のたばこ販売所が大量のたばこを市外から持ち込んでいる可能性がある。法的規制は一切ないのだが、貴重な自主財源の維持のために地元でのたばこの仕入れを徹底してほしい。

〈市長〉地域の店での購入、地元仕入れへの理解を深めていただくよう努力する。

民間企業が参画する行政サービスについて

〈問〉高齢者の毎日の安否確認は当市では現在行われていない。飲料配達の際に安否確認を手伝いたいという申し出が市内の企業からある。ひとり暮らし高齢

者は3100人余りいるが、安否確認を要すると思われる方々だけを対象とすると年額600万円ほどで可能である。また、別の企業からも自販機の利益を救済物資などで還元したい旨の申し出もある。こうした民間の協力を取り込みながら行政サービスを向上させられないか。

〈市長〉現在、困っていることや支援してほしいことなどの実態を把握するための調査を行っている。新聞や郵便事業者との連携も視野に入れ、安否確認を含めたサポートのあり方をさまざまな方面から検討する。庁舎管理や施設管理のみならず防災の観点からお話を伺い協議したい。今後も民間事業者の社会貢献に対しては、市としても積極的に協力したい。

公共事業評価の第三者機関への委任と外部監査について

〈問〉ここ10年で全国の多くの都道府県や市が事業評価を独立した第三者の諮問機関に委任している。自分たちの施策を自分たちで評価するのは客観的とは言いつれない。事業スパンの長い区画整理事業や下水道事業などについても透明性の高い議論が期待できる。初めに監視委員会を設置して条理化に移行したケースもある。不適正な公金支

出など内部監査だけでは議論しにくい問題が発生したときにとても有効な制度だ。問題を未然に防ぐ防波堤の意味でも内部監査と両輪で機能する外部監査法人による監査制度を導入できないか。今は中核市以上に義務づけられているわけだが、これからの地方自治体監査のスタンダードになる日がきつと来る。

〈市長〉ISOや区画整理事業など、個別で外部からの評価を導入しているケースもある。他市における運用状況を参考にし、議会や監査委員の意見を踏まえて検討する。

ささしまあいこ
笹島愛子 議員



介護高齢者や家族の実態に応じた改善について

〈問〉施設入所の待機者が現在

469人となっている。その中でも特養ホームに入所を希望している人は444人だ。この数字をどのように見ているか。

〈市長〉第4期介護保険事業計画で22年度に20床の増設を計画している。また、短期入所施設もある。今後地域包括支援センターを中心に取り組んでいく。

〈問〉60代の方が80代・90代の老親を介護し「自分自身が壊れそうだ。」との切実な訴えがたくさんある。施設入所もできず経済的にも大変、精神的・肉体的に限界の家族ケアをどうするのか。

〈市長〉家族介護者の精神的負担を軽減するための教室をほぼ週一回のペースで開催し、経済的負担を軽減するために高齢者住宅介護慰労金や家族介護用品券の支給事業を実施。また、高齢者に関する相談窓口を6カ所設置し相談活動をしている。

へき地保育所への2歳児入所は誕生日を迎えた時点で随時可能となるように

〈問〉今まで、何度かへき地保育所の改善点などを取り上げてきた。現在は2歳児も受け入れ、時間延長も行っている。しかし、保育士不足等から定数増に至っていない。働きたい、働かなければならない家庭がふえている。ぜひ、2歳児入所の枠を広げて年度途中の受け入れを。

〈市長〉年度途中で入所の希望があった場合、配置された職員が見ることができれば入所を受け入れてきた。今後年度途中の入所希望があった際はできる限り配慮していくとともに、他の保育施設での受け入れ可能な場合もあるので相談いただきたい。保育士の確保については、今後も努力する。

父子家庭の実態を調査し、一定の手当・支援金など市独自の制度を設けること

〈問〉一人で子育てする大変さは父親も母親も変わりがないにもかかわらず、父子家庭には児童扶養手当が支給されない。ある自治体では、児童扶養手当額に届かないまでも一定の手当・支援金を支給している。本市でもぜひ対応を。

〈市長〉ひとり親家庭の支援では父子家庭と母子家庭の両方に支援されるものもあるが、経済的に困窮度が高い母子家庭に限定した児童扶養手当の支援があり、差が生じていることは認識している。市単独で負担することとは困難だが、市長会等を通じて国に要望していく。

委員会から

--*-*-*
 会期中の12月9日、10日、14日、15日の4
 日間にわたって各常任委員会で付託された議
 案等について審査を行いました。
 各委員会からの主な報告は次のとおりです。
 --*-*-*

総務財政常任委員会

◇議員・市長等・市職員の 期末手当の減額などについて

定例会初日に、秋田県人事委
 員会の勧告を踏まえ、期末手当
 等の減額や市職員の住宅手当の
 廃止に関する条例改正案が議会
 に提出され、即日、審査を行っ
 た。減額による買い控えなどが
 地域経済の停滞につながるとの
 意見もあったが、本委員会では
 改定することに賛成した。

◇「ハンカ」収納システム

現在大館市では、市・県民税
 や固定資産税、軽自動車税など
 の市税の納付方法は、市役所・
 市民サービスセンターや銀行な
 どの各金融機関での窓口納付、
 または、口座振替になっている。
 そこで「市民サービスのひとつと
 して、年中24時間利用できるコ
 ンビニエンスストアでも納付で
 きるようにしてほしい」と委員

厚生常任委員会

◇国民健康保険特別会計の 状況について

国保事業基金から3億114
 3万円を国民健康保険特別会計
 へ繰り入れしたい旨の説明が保
 険課よりあった。これは今年度
 新型インフルエンザの流行によ
 り医療費等が増大し、国民健康
 保険の財源が不足したことによ
 るもの。この説明を受けて委員
 から「今回の基金繰り出しによ
 り基金残高は約1億円となり、
 今後基金残高不足に陥る恐れが
 ある。新型インフルエンザがま
 た流行すると4〜5億円はあっ
 という間に消えてしまう。一般
 会計も苦しいし市民もいろいろ
 な負担や収入減で非常に大変な
 状況の中で、今後不足する部分
 を一般会計から繰り入れするの
 か。または国保税率を引き上げ
 るのか」との質問に、市長は
 「医療費について、平成20年度
 は19年度と比較して3・2%減
 少したが、今年度上半期の医療
 費・高額療養費ともに大きく増
 加している。こういった状況が
 続くとも基金を活用してもなお財
 源が不足するわけで、場合によ
 っては国保税率の改正もしなけ
 ればいけない事態になると考え
 ている」と述べた。

教育産業常任委員会

◇新型インフルエンザについて

12月7日現在の市内小・中学
 校での新型インフルエンザの感
 染者数などが報告された。小・
 中学生の感染者数(累計)は1
 726名で発症率29・3%、学
 級閉鎖数44学級、学年閉鎖数44
 学年、休校7校(園)で、10月
 中旬から急激に感染が拡大した
 が、学級閉鎖等の措置により11
 月中旬には新しい感染者は減少
 傾向になったとのこと。しかし、
 12月に入っても1日当たり30〜
 40人の新たな発症者が報告され
 ており、ワクチン予防接種の前
 倒しを実施・計画しているとの
 こと。また、学級閉鎖等の措置
 をとった日数の回復措置につい
 て各校の計画を調査したところ、
 ①週当たりの授業時数の増加②
 行事を中止して授業時数に充て
 る③冬季休業日を減じて授業日
 とするの3つの方法で実施・計
 画しているとのことであった。

建設水道常任委員会

◇新町・中町・向町市営住宅の 建て替えについて

老朽化が著しく入居率も半分
 に満たない新町・中町・向町の
 市営住宅の今後の方向性につい
 て、委員から「改築するの
 か、またはすべて取り壊して更地
 にするのか」との質問に、市長は
 「新政権になって国の補助等が
 どうなるのか検討もつかないが、
 大町住宅と同様にPFIの手法
 で民間資金を活用し高齢者や低
 所得者向けの住宅として、でき
 るだけ早い時期に整備に向けた
 準備に入りたい」と答弁した。



旧正札竹村ビルの解体工事現場を視察
 (建設水道常任委員会)

私もひとこと(10) ⑥

このコーナーではみなさんからの「なまの声」を募集しています。お気軽にご投稿下さい。

忠犬八子公銅像及び秋田犬群像維持会

運営委員 千

ちば

葉

ゆう

雄さん (北神明町)



「大館の観光はど」が担う」

「本年、東京日々新聞の企画で十和田湖・男鹿半島・田沢湖・鳥海山が全国に紹介・宣伝され、以来観光客は急激にふえているとのことである。昨年は十和田湖だけでも3万人が訪れている。今年は優に3倍の人数が見込まれているが、彼らに十分な満足感を与えることでさらに観光客の増大に努めるならば、そこに物資の消費を起し、生産を刺激し、豊かな天然資源を有しながらへ長夜の倦眼をむさぼっている。本県産業の開発に大きな効果がある」

右記は、今から83年前の昭和2年に県



八子公のぬいぐるみ

議会で中田儀直氏(大館町)が初質問した一部である。見事な先見力と優れた洞察力に感動的だ。今、地域社会で問われている「観光立県」がすでに80数年前に提案されていた事実が驚き、その考え方の斬新さは現代人に対して叱咤しているように見える。参考までに、十和田湖の国立公園指定は、その9年後の昭和11年2月になってからである。

さて、昨年来、東北新幹線新青森駅開業に伴う対応で「大館地域観光振興協議会」が立ち上げられ、JR東日本秋田支社との意見交換会、協議会事務局会議が数度開催されているが、JRから出された提言がいくつかあったので紹介したい。「地元にある素材を見出すだけでなく、磨くことが必要。大館にはそれができない」「大館に観光客を注目させるだけのナンバーをつくり、大館に来る理由を誇示すべき」「単なる祭り、イベントでなく、通年観光としての大館の光をつくる必要がある」等、けだし卓見である。ここで問題だが、当該事務局会議の

提案内容(12月現在)を拝見してもJR側へ答えるに足りる良き観光モデルが期待薄の気配が見られる。問題は検討の段階とはいえ、観光客の顔が向いてくれる地方色豊かな独自性と客観性のある外からの目に対応できる提案ができるかにある。帰結するところは、JRの指摘「大館に来たいと思わせるオンリーワンは何か」だろう。そこに大館観光振興の布石と言える将来ビジョンが見出され、課題に対応する芽が存在することに気が付いてほしいのです。祭り行事で精一杯と本来の観光に真摯さがなく、豊かな地域素材に対応する動きなく現状を推移していいはずはないと思う。こうした諸々の問題点の中に市民の意識が重要となろう。一部関係団体のみ組織ではないに、一般市民も議論の中に加わり声をあげていただきたい(市民アンケートでは不十分)。市民の人材には議論の問題点を切り開く勇氣ある創造力と情熱が残っているはずである。

市議会を傍聴してみませんか

定例会と臨時会の本会議はどなたでも傍聴できます。

傍聴されるかたは、市役所東側(裁判所側)3階の議場入口で受付簿に住所・氏名等をご記入のうえ、係員の指示に従って議場へお入りください。

なお、団体での傍聴をご希望の場合は、傍聴席の数に限りがありますので、あらかじめ議会事務局にご連絡ください。

☎ 4317108 (直通)

編集後記

初めて議会報の委員になり、編集の難しさを実感しています。とは言うものの、大まかなレイアウトは議会事務局職員が作成してくれましたので、私なりの意見をただ述べて編集に携わっている状況です。それでも一番心がけたいのは、市民の皆さんに「オッ、見やすい、空間もなかなかいいネ」など、読みたいと思ってもらうことです。

これからも議会の様子をわかりやすく伝え、議会が身近になるよう努力したいと思いますので、市民の皆様からさまざまなご意見を寄せていただきたいと思います。

(笹島 愛子 記)